

福祉の見方・考え方を働かせ問題解決能力を育成するための指導方法
－パフォーマンス課題に対する評価規準及び評価方法－

1 はじめに

平成 30 年告示の学習指導要領が昨年度より年次進行で実施されている。目標や内容が「知識及び技能（技術）」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の 3 つの柱で整理された。急激な社会的変化の中で、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることが求められている。それは、Society5.0 の到来が予想されている社会において、「知識」を蓄えるのではなく、「知識」を使って問題を解決する「新しい知」が重要と言われているからである。

これらのことから本研究では、パフォーマンス課題への取組を通して、直面する課題に対して既習の知識を活用し、協働的に問題解決を図ることを目指す。その成果から福祉の視点を改めて明確にし、授業展開や評価規準及び評価方法の改善を図るものとする。

2 単元の概要

- (1) 科目名 ころとからだの理解
- (2) 対象生徒 福祉科 2 年生 19 名
- (3) 使用教材 ころとからだの理解（実教出版）、学習プリント、タブレット端末
- (4) 単元名 第 4 編 認知症の理解

3 単元の目標

- (1) 認知症の症状や特徴について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
【知識及び技術】
- (2) 認知症の人が社会生活を営む上での課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決すること。
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 認知症を取り巻く状況について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の主な病気の特徴を理解している。 ・ 認知症に関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の人が生活する上で抱えている課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症を取り巻く状況について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（18 時間）

第 1 章 認知症をとりまく状況	2 時間
第 1 節 認知症ケアの歴史と理念	(2 時間)
第 2 節 認知症高齢者の現状と施策	
第 2 章 認知症の基礎的理解	7 時間
第 1 節 認知症による症状	(1 時間)

第2節 認知症の診断	(1時間)
第3節 認知症の原因となる主な病気	(4時間)
第4節 認知症の治療・予防	(1時間)
第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活	3時間
第1節 認知症の人の特徴的な症状	(2時間)
第2節 認知症に伴う日常生活への影響	(1時間)
第4章 認知症と地域サポート	3時間
第1節 地域におけるサポート体制	(2時間)
第2節 家族への支援	(1時間)
まとめ	3時間
事例検討	(3時間)

※○印は評定のために用いるもの

時間	学習活動	評価		評価方法
		観点	記録	
第1章 認知症をとりまく状況				
【ねらい】 認知症ケアの歴史や理念を踏まえ、現状を理解する。				
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの歴史を知ること で、よりよいケアの理念を理解する。 認知症高齢者の現状と認知症に 関する施策について理解する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアの歴史を知り、近年の 考え方を理解している。 ワークシート 定期考査
		思	○	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者の推移を知り、今 後、必要となる施策を具体的に考 えられている。ワークシート
		知	○	<ul style="list-style-type: none"> 認知症施策について理解してい る。定期考査
第2章 認知症の基礎的理解				
【ねらい】 認知症の症状や原因となる病気について理解する。				
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の定義と症状について理 解する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 中核症状について理解し、物忘れ や間違えられやすい症状との区別 ができています。 ワークシート 定期考査
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の診断方法について理解 する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな認知症の診断方法を理 解している。 ワークシート 定期考査
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の原因となる主な病気の 特徴を理解する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の原因となる病気の特徴を 理解している。 ワークシート 定期考査
	<ul style="list-style-type: none"> 事例を通して、認知症への理解 を深める。 	思 主	○	<ul style="list-style-type: none"> 各疾病の事例を通して、特徴の違 いを明確に理解している。 ワークシート 定期考査

	・認知症の治療と予防について理解する。	知		・治療の目的は症状の安定と進行の抑制であることを理解している。 ワークシート 定期考査
第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活 【ねらい】 中核症状やBPSDを理解し、日常生活への影響を考察する。				
	・認知症の人の心理や特徴的な症状について理解する。	知	○	・認知症の人は不安や焦燥感を抱いていることを理解している。 ワークシート 定期考査
	・BPSDが起きる原因を考える。	思	○	・BPSDが起きる原因を考え、介護職の対応によって、出現に差があることを理解している。 ワークシート 定期考査
	・認知症に伴う生活障害と、認知症の人の行動や言葉の背景を理解することの重要性を学ぶ。	思	○	・認知症の人の行動や言葉の背景にはさまざまな理由があることを理解した上で、利用者を理解している。 ワークシート
第4章 認知症と地域サポート 【ねらい】 地域のサポート体制や家族への支援を知る。				
	・地域包括支援センターの役割や機能を理解する。	知	○	・地域包括支援センターの機能を理解している。 ワークシート 定期考査
	・地域におけるサポート体制を理解する。	知	○	・地域包括ケアの仕組みを知ることによって、認知症の人の暮らしが変わることを理解している。 ワークシート 定期考査
まとめ 【ねらい】 既習の知識を活用して、事例の問題解決を図る。				
	・事例に示す病気をまとめる。	知 思	○ ○	・病気の特徴を理解し、要点を的確にまとめている。 ワークシート 成果物
	・問題解決を図る。(※1)	知 思 態	○	・事例に対して、主体的かつ協働的に問題解決を図っている。 ワークシート 成果物

6 パフォーマンス課題の概要

認知症の症状に応じた対応方法をグループで検討し、発表する。

	教師の活動	生徒の活動
1時間目	事例の提示 ・教科書 P.129 のコラムを参考に事例を提示する。	調べ学習 ステップ1～3 ・病気の特徴をまとめる。 ・架空利用者Bさんについてまとめる。

2 時間目	巡回指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 グループを 3～4 名で構成。 ・ 全員が発表できるように巡回する。 ・ 発表資料を作成するように指示する。 	グループでの事例検討 ステップ 4～5 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことやまとめたことを共有する。 ・ 支援方法について Class Notebook に入力する。
3 時間目	発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必ず全員が発表するように指示する。 ・ 他グループの発表をしっかりと聞くように指示する。 	発表 (35 分：1 グループ 5 分+予備) ステップ 6～7 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必ず全員が発表する。 ・ 他グループの発表をメモする。 振り返り (15 分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 他グループと自分のグループを比較し、振り返りを行い、改めて自分の考えを構築する。

7 パフォーマンス課題に対する評価

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事例に対する対応方法を根拠に基づいて考察している。 調べ学習 (ワークシート) A ICF (国際生活機能分類) の視点から日常生活に及ぼす影響について総合的に考え、現実的な対応策が根拠に基づいて考えられている。 B 本人の生活歴や環境などから支援方法が考えられているが、一つの視点に留まっており、根拠に乏しい。 C 支援方法は考えられているが、根拠に欠ける。	他者の意見を取り入れながら学習に取り組んでいる。 振り返り (ワークシート) A 他のグループと自分たちのグループの支援方法の違いを的確に捉え、新たな視点の構築ができている。 B 他のグループの支援方法のよい点を理解し、今後の学習につなげようとしている。 C 事例検討に対する感想に留まっている。

8 取組の様子

調べ学習において、生徒はタブレットを用いて認知症の症状等を調べていた。生徒は、インターネットで最初に開いたページを正しい情報と認識する傾向にあるため、必ずファクトチェックするように指導した。また事例には、架空利用者 B さんの生活歴なども記載していたが、「認知症」に着目しており人を見ていないように感じた。そのため、利用者の全体像を捉えられていなかった。グループでの事例検討では、相手の考えを傾聴したり、共感したりすることができており、新たな発見につながった生徒もいた。発表場面においては、具体的な支援方法を提案しているかどうかが大切であったが、1つの情報のみから支援方法を導き出しているグループが多く、支援内容の根拠や理由が述べられていなかった。振り返りでは、全グループの発表を聞いた後、自分が考える支援方法を改めて提案させた。他者の意見を聞いて、自分の考えが変化したことを理由や根拠を交えて説明できている生徒もおり、成長を感じる場面であった。

9 成果と課題

事例検討では、自ら調べ学習を行うことで、基礎知識の定着を図ることができた。また、教員側が想定する授業を展開するためには、ワークシートに何を考えて書かせるのかを具体的に明記することが大事であると改めて感じた。さらに福祉の視点を明確にすることで、福祉職の関わり方が認知症高齢者に及ぼす影響が大きいことを随時説明することが重要であると考えた。

課題として、多角的な視点の取得が挙げられる。生徒は1つの情報に対し、1つの支援方法を考える傾向がある。また、今回は2年生でのパフォーマンス課題の実践であったためか、情報を関連付けて考えることができていなかった。福祉の視点は簡単に取得できるものではないため、日頃の授業の中で蓄積していくことが大事であると感じた。問題解決能力の育成には重要な観点であるため、ICF（国際生活機能分類）の視点をもって利用者理解に努めるように指導していきたい。

また、授業の工夫も課題であると考え。これはパフォーマンス課題に限らないが、生徒の力を伸ばすためには生徒の実態を把握した上で、授業の組み立てを考えることが大切だということである。特にパフォーマンス課題は単元終了時の目指すべき姿に一貫性をもたせながらも、評価規準を生徒の実態に合わせることを大事だと感じた。そして、その目指すべき姿を実現するための授業展開及びワークシートになっていることが重要である。

今回の成果と課題を踏まえ、今後も研鑽を積みたい。